

「骨密度検査」で 骨の健康診断してみませんか？

検査機器が新しくなりました



「骨密度検査」とは？

骨に含まれるカルシウムなどの量（骨量）を測り、骨の強度を調べる検査です。
骨量が低い場合、「骨粗しょう症」という病気が疑われます。



「骨粗しょう症」とは？ ～沈黙の疾病・気づかない骨折～

歳をとるとともに、いろいろな原因で骨量が減り、骨の中がスカスカな状態になります。
このように骨がもろくなり骨折しやすくなった状態を“骨粗しょう症”といいます。

●骨折しやすい4つの部位

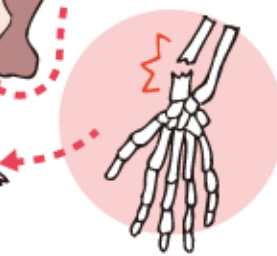
腕のつけね(上腕骨：じょうわんこつ)の骨折



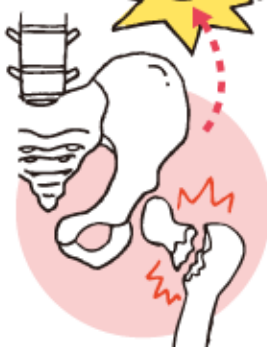
背骨(椎体：ついたい)の骨折



背中が曲がる
腰や背中の痛み
身長が縮んだりします。



手首(橈骨：とうこつ)の骨折



足のつけね(大腿骨近位部：だいたいこつきんいぶ)の骨折

歩けなくなり、手術後は長期間の安静が必要。
「寝たきり」になることもあります。

●どんな人がなりやすいの？

・女性

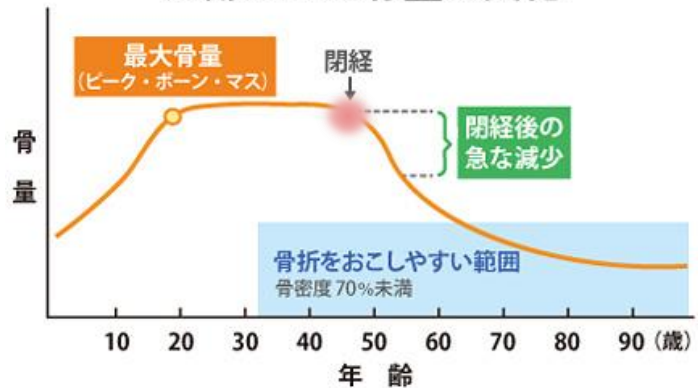
閉経後、女性ホルモンの分泌が減ることが原因の一つです。女性ホルモンは骨密度の低下を抑える働きがありますが、その分泌が減ることで骨密度が急激に減ってしまいます。

・高齢者

栄養のアンバランスや運動不足などが加齢とともに進むため、年齢が高いほど骨粗しょう症が増えます。

- ・小柄な人や、痩せている人
- ・過去に骨折したことがある
- ・運動不足、たばこを吸う、過度の飲酒
- ・カルシウム、ビタミンD、タンパク質の不足

加齢による骨量の変化



20歳代で骨量のピークを迎え、40歳代くらいまでは一定していますが、その後年齢とともに減少していきます。



検査方法は？

当院は29年度より、最も診断性能の高いDXA（デキサ）法というX線検査を導入しました。

測定する骨は、おもに腰の骨または大腿骨頸部です。

専用の機械に、仰向けに寝るだけで痛みもなく検査できます。

■ なぜ、腰の骨または大腿骨頸部を検査するの？

骨には、外側（皮質骨）と内側（海綿骨）があり、骨粗しょう症になると、まず初めに骨の内側（海綿骨）がもろく弱くなっていく特徴があります。

このことから、海綿骨の割合が多い、背骨や腰の骨を測定することで診断性能がより高くなるといわれているためです。

骨粗しょう症は、骨密度検査での早期発見・早期治療がとても重要な病気です。

なお、骨密度は年々変化していくものですので、定期的に検査を受けられることをおすすめします。

オプション料金 3,000 円（税込）

検査時間は 約 10 分 程度

ぜひ、一度受けてみられませんか。

医療法人社団 尾崎病院 健診センター

TEL 0857-31-2665 / 受付 8:30~17:00（平日のみ）